

みんなのトンボ池 ESDバージョン

対 象：小学校4年生～高校3年生
 人 数：4～5人/グループ（3～5グループ程度）
 教科／分野：理科、社会
 授業時間数：60分授業 1コマ（＋【発展】を行う場合は1コマ追加）
 場 所：室内

ESD プログラ ムへの 思い	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の環境学習プログラムのESDバージョンを作成するにあたり、以下の想いを満たすことができる発問を追加した。 1. 自分の周りだけでなく、川のつながりから地域がつながっていることに気付ける。 2. 想像上の地域から、自分が住んでいる地域に視点を移し、地域の課題に思考を向けることができるようになる。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な環境を最大限に保全しながら利用できるような土地利用を考える。 ・広い地域の環境を守りながら生活を豊かにするために、どのような工夫が必要かを考える。 ・地域が相互に関係していることに理解が及ぶようになる。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ProjectWILD 2004年版-水辺編-を基に、発展を追加したプログラムである。 ・多様な立場に立って考えることで、それぞれの利害と相互に与える影響に気付くことができる。 ・狭い視点から広い視点へと転換する展開で、環境は広域的に影響し合うものであることに気付くことができる。 ・実際の地域の課題や関係者を整理し、地域理解を深めることができる。 		
持続可能な社会づくりの構成概念	<p>多様性：地域には多様な価値観を持つ人が存在し、影響し合っていることを知る。</p> <p>相互性：自らの行動が他者や環境にどのような影響を与えるかを考える。</p> <p>公平性：多様な立場の人々が関係し合う場面で、全員が納得できる計画を立案する。</p>		
重視する能力・態度	<p>未来像を予測して計画を立てる力：相互に及ぼす環境への変化を想像する力をつける。</p> <p>多面的、総合的に考える力：多様な要因に対して影響し合う事柄を理解する。</p> <p>進んで参加する態度：誰もが影響を及ぼしてしまうことを踏まえ、自らの立場に立った意見を述べ、一人一人役割があることを認識して生活する。</p> <p>他者と協力する態度：土地利用計画を作成する上で、合意形成を図る。</p>		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内容
5分		講義 室内	<p>1) クラスを3～5人のグループに分ける。トンボ池周辺の土地利用を考える際には、トンボ池に関係する以下の土地利用団体が存在しており、各意見を考慮しなければならないことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民：この地域で快適に住みたい ・農場経営者：食物生産や家畜飼育のために土地を利用したい ・企業：商業や経済成長のために土地を利用したい ・ガソリンスタンド経営者：効率よく商売をしたい ・公園局職員：人々が娯楽を楽しむ場所が欲しい <p>参加者は土地利用を切り抜く。</p>
10分		GW 室内	<p>2) 団体のそれぞれの立場で、各土地利用について、賛成か反対かの意見をリストアップする。</p> <p>作成したリストを基に、問題点を抽出し、その解決方法を検討する。</p>

15分	各団体や土地の関連性の気づきを促す。	GW 室内	3) 作成したリストを基に、池周辺の土地利用計画を作成する。 ～気づきの深化～ 計画を立てる時には、以下のような疑問を投げかける。 ・工場や事業を閉鎖すると、どんな影響があるかな。 ・農業をやめると、私たちや生物の生活にどんな影響があるかな。 ・企業の活動によって、どんな影響があるかな。 ・道路があるとどんなことが起きるかな。 ・娯楽を楽しむとはどんな楽しみ方があるかな。そして、環境にはどんな影響があるかな。
15分		発表 室内	4) 1 グループずつ計画の内容を発表し、お互いの計画を見比べ、池の貴重な環境をもっとも保全し、また利用できる計画を選ぶ。
15分	繋がっているそれぞれに生物の生息地や水の利用があることに気づき、自分が考える場所以外を犠牲にすることのない計画を考える必要があることを学ぶ。	講義 GW 室内	5) トンボ池を上下流へ伸ばし、川をたどる道筋を確認する。 トンボ池の下流に、別の池と湿地を黒板に書き込み、ユリカメ湖と名付け、ヨシハラ入江と、最終的にクジラ湾まで書き込む。 これまで立てた計画を実行した場合に、下流の生息地に対して与える影響を挙げ、下流の環境を考慮した計画に作り直す。
【発展】 20分	下流域まで考えた計画と考えていない計画がもたらす影響を比較させ、広域な視点の重要性に気付かせる。 時間の経過によって生じる影響を考えさせる。	GW 室内	～発展①未来を想像してみよう～ 3) で作成した計画と 5) で作成した計画それぞれで、10年後に流域内の環境や生活がどのようになっているか、想像する。 ・現在の環境はどう変化したでしょうか。 ・人々の生活は豊かになっています。 ・下流域の環境はどうなっているかな。 ・植生の遷移や人口構造の変化を予想してみよう。
40分	自分が住んでいる地域に着目し、トンボ池の問題はどこでもありうるものだと気付かせる。	GW 室内	～発展②トンボ池を自分事として考えてみよう～ 実際の身の回りの環境（校庭、ビオトープ等）を使って、同様に土地利用計画を作成する。 ・どんな関係者がいるでしょうか。 ・どんな地域にしたいですか。 ・保全しなければならない環境は何がありますか。
SDGs との 関連性	主に以下の SDGs の目標と関連する。 目標 11. 住み続けられるまちづくりを 目標 12. つくる責任 つかう責任 目標 14. 海の豊かさを守ろう 目標 15. 陸の豊かさを守ろう 目標 16. 平和と公平をすべての人に 目標 17. パートナリーシップで目標を達成しよう		
対象を発展させる 可能性	自分の地域の課題がどのような構造になっているか整理し、課題解決案を考える。 また、解決案を考える際は、多様な利害関係を整理し、自分たちに何ができるか、周りにどう働きかけることができるか考える。		
その他 補足事項	本プログラムは、「ProjectWILD 2004 年版-水辺編-」を基にしている。プログラムの祖も流れ（発展を除く）は、ProjectWILD を参照のこと。		